

# ETAJIMA GoON! Vol.35

## 里の駅 能美産直市場（能美町） 会長 にし ひろき 小西 博基さん

【施設紹介】60歳を過ぎた頃「地元へ貢献したい」思いから、能美町に無かった産直市場の開設に取り組む。竹やぶを切り開き、廃屋を再利用して2016年にオープン。小規模生産者を中心に、地元の新鮮な野菜や花き、果物、調味料や乾麺など特産品を揃える。市内外から年間約4万人が訪れる、江田島市を代表する人気スポット。



## 儲けよりも 喜んでいただける販売所 あること

能美町出身の小西さん。長年暮らす地域に貢献したい思いから里の駅能美産直市場を開設。沖美町のウエストバザール（当時）、大柿町のふれあいプラザさくらの先例を見て、能美町にも産直市を、と考えたのが構想の原点。土日に100軒近く回り、公民館で説明会を開き、同志を募った。中町の県道沿い斜面の竹やぶを借り、賛同を得た30人程の仲間を募った。



▲無農薬ダイコン⑩もものすけカブ⑩  
新鮮で珍しい作物にファンも多い

価格高騰の昨今、春菊や小カブなど100円前後の作物に驚かされる。スーパーなどの商品より少し見劣りする理由もあるが、気軽に買いにきてもらえる価格を目標とする。出品者の多くは70代以上で、中には90代の方も活躍されている。高齢者が集まり野菜などを販売し、小西さん一人の号令で



▲写真右から小西さん、空本さん、下田さん。小西さんの思いに共感し、歩んできたお二人ならではの、多面的なお話を伺えました

間と始めた。知人から譲り受けた廃屋を解体後、現地から運び出し、約一週間で組み立てた。会員制の産直市で、店番や両替は当番で行う。キクイモのような珍しい野菜も並び、調理法が分からないお客さんには当番の人が応じる。「自ら店番をする手作り感にリピーターが親しみを持ってくれる」と小西さん。

はなく、皆の声を活かして横の繋がりも大切にする市場だ。取材日に同席くださった下田さんと空本さんは、共に市場を支えてきた同志。小さいお子さん連れのお客さんや、野菜の調理の説明から、話に花が咲くムードメーカーの空本さん。「お客さんが喜んでくれる、温もりのある販売所が小西さんが目指すもの」と下田さんは語る。家におったら寂しいけれど、と憩いの場に訪れる常連客も少なくない。「ここが元気の源じゃないかと思う」と小西さん。地域にも元気の出る、楽しい場所。儲けるといふより喜んでもらえること。商品を通して温かい繋がりを育んできた能美産直市場は、今年で8年目を迎える。

# つむぐ通信

シリーズ連載 その96

「つむぐ通信」では、地域おこし協力隊員が、月替わりで活動内容やイベントなどのお知らせ、地域おこしに関する企画や提案を紹介していきます。

## 【江田島市地域おこし協力隊】

- 国際交流支援員 大方 芳恵
- えたじま里海ナビゲーター 守本 怜矢
- 観光事業総合プランナー 竹林 健一
- 観光事業総合プランナー 山田 京子



facebookで情報を発信しています

江田島市地域おこし協力隊



まずは、観光で多くの方々に江田島市を訪れていただき、この風景に触れていただくことが先決ですが、もう一つの江田島の魅力は人の温かさ。

私は陸からの海釣りがとても好きで、広島を離れる前は毎週末江田島市や倉橋島に足を運んでいました。その頃からよくおぼろげに「いつか島で生活したいなあ」と思っていました。この度ご縁をいただき、本当に島での生活を送ることになりました。

4月1日より地域おこし隊として着任いたしました山田京子です。私は広島市南区出身ですが4年前に約18年生活をした富山県から広島市に戻ってきました。はじめまして！

多くの海に面した町では気性の激しい地域も少なくないのですが、江田島市はとてもフレンドリーな方が多く、そこも私がぜひ多くの方に知っていただきたい点です。転入してきた私を温かい笑顔とお声がけで接してください、安心してここでの新生活をスタートすることができました。越してきたばかりなのにまるで「親戚のおじさんやおばさんに会った」ような、安心して身を寄せることのできる場所。そんな素晴らしいところもぜひ多くの方に知っていただきたいと思っています。



おとなりのご主人からの黒鯛のおすそ分け▶

ウロコ・内臓すべて処理済みで、江田島市は転入者に優しい素敵な街です。

広報掲載から翌月頃にA3判フルカラー版を江田島市ホームページで更新します▼

施設情報 所 能美町中町 4579-3 営 9時～13時（売り切れ時点で終了） 休 年中無休（年末年始を除く）  
☎(0823)69-9333

公式HP

